

| Page | 項目 | 誤 | 正 |
|----------|--|--|--|
| C-60 | ■Brockenbrough現象 | Brocknbrough現象 | Brockenbrough現象 |
| (アプリ版のみ) | ■主要降圧薬の禁忌や慎重投与となる病態 利尿薬(サイアザイド系)の禁忌の欄 | 高K血症 低Na血症 | 低K血症 低Na血症 |
| I-28 | INTRO | ④ 気腫性病変とは、終末細気管支より末梢の気腔が細胞壁の破壊を伴いながら異常に拡大する病態である(明らかな線維化は認められない)。 | ④ 気腫性病変とは、終末細気管支より末梢の気腔が肺胞壁の破壊を伴いながら異常に拡大する病態である(明らかな線維化は認められない)。 |
| I-53 | 治療 | ⑦ 根本的治療としては肺移植のみで(内科的治療抵抗例)、対処療法として在宅酸素療法を行う。 | ⑦ 根本的治療としては肺移植のみで(内科的治療抵抗例)、対症療法として在宅酸素療法を行う。 |
| J-32 | 補足事項 ■MLF症候群の病態 | <p>正常</p> <p>MLF症候群(左MLF障害の場合)</p> <p>●前頭葉第8野からの指令は、対側のPPRFに届く。 ●右のPPRFによって、右の外転神経が働き、右眼が外転する。 ●また、右のPPRFから上行する左のMLFを経て、左の動眼神経が働き、左眼が内転する。</p> <p>●前頭葉第8野(左)からの指令は、対側のPPRF(右)に届く。 ●PPRF自体は正常なので、右外転神経は働き、右眼は外転する。 ●一方、右のPPRFから上行する左のMLFは障害されているため、左の動眼神経は働きず、左眼は内転できない。 ●左右の視線がずれているため複視をきたす。右眼は外転時に単眼性の眼振を生じることが多い。</p> | <p>正常</p> <p>MLF症候群(左MLF障害の場合)</p> <p>●前頭葉第8野からの指令は、対側のPPRFに届く。 ●PPRFから指令を受けた外転神経によって、右の外転神経が働き、右眼が外転する。 ●また、右の外転神経から上行する左のMLFを経て、左の動眼神経が働き、左眼が内転する。</p> <p>●前頭葉第8野(左)からの指令は、対側のPPRF(右)に届く。 ●PPRFから指令を受けた外転神経は正常なので、右外転神経は働き、右眼は外転する。 ●一方、右のPPRFから上行する左のMLFは障害されているため、左の動眼神経は働きず、左眼は内転できない。 ●左右の視線がずれているため複視をきたす。右眼は複視を避けるため正中位に戻ろうとし、眼振を生じることが多い。</p> |
| 索-8 | ふ行 | プロベネシド | プロベネシド |